



英語の学び方

— 何をどの程度どのように —

三浦 省五（現在福山大学客員教授、元広島大学教育学研究科教授）

1. はじめに

私たちは毎日、母語（日本語）の中で生活し母語のお世話になっていますが、その学び（習得）においては私たち本人の努力だけでなく、私たちの親や教師、まわりの多くの人の援助を受け、あまり本人の記憶にはないけれど、苦勞しながら日常生活や職業・学問に役立てるまでになってきたはずで、母語としている日本語の場合でも、私たちが立派な日本語をしっかりと学ぼうと思えば、それだけの覚悟と努力が日々必要です。幼少の頃から、親や先生や先輩から日本語の表現が不適切であると指摘され訂正され、指導されて育てられたように思います。特に私たちの生活とそれほど関係の無い外国語・英語に関しては、それを学ぶ特別な理由・目的・価値があれば学びも進みますが、それが無ければ学習は進展しないのは当然のことです。

この度の広大マスターズ TSS 文化大学講演題目は「英語の学び方」としました。いつも私が学生に推薦しております書物と同じ題目、『英語の学び方』です。その著者は、尊敬する英語の達人、あこがれの英語の名人、「名人の技は「只管朗読」（しかんろうどく：ひととおりの意味のわかった英文をひたすら音読すること）から生まれる」と主張される國弘正雄先生。彼の著書『英語の学び方』（たちばな出版、平成 18 年初版 1 刷、平成 24 年初版 3 刷）を講演では先ず紹介いたしました。続いて、私の個人的な英語学習体験を交えながら「英語の学び方」を録音教材・配付資料に基づいて語らせていただきました。



2013 年 2 月 19 日 TSS 文化大学で講演する筆者

2. 英語を学ぶ時に必要な条件とは？

目的・目標を明確に定め動機と意欲を高めることです。しっかりとした英語の学習目的があれば「やる気・負けん気・根気」は継続します。何のために英語を勉強するのかを考えることです。研究のためか、職を得るためか、旅行のためか。目的から生まれてくる学習動機・意欲の強さはどの程度なのか。どこかの誰かのように「生きるために」外国人を英語でガイドする仕事をするならば、未知の事象までも英語で学習する動機は高いはずです。英語を使って何か具体的に実行しようとするれば、それに伴って学習内容と習得願望の程度は決まってきます。

これまでに私が接触した人で学習意欲の非常に高かった人も多くおられました。そのひとりには原爆乙女の松原美代子さんです。彼女は、バーバラ・レイノルズさんとアメリカ西部からワシントンまで何万キロと車で走り広島から「原爆の絵」を携えて戦争の悲惨さを全米に訴えられました。松原さんは、目的達成のために熱心に英語を勉強され、平和活動に従事しておられます。今回の講演の導入部分では、1982年（昭和57年）6月7日のNHKテレビ番組「これがヒロシマだ — 原爆の絵 アメリカに行く —」を先ず受講生に紹介しました。自らの体験を外国で語り、ヒロシマの平和記念資料館で外国からの人々に語る使命を持つ松原さんの英語学習動機は非常に高いものがありました。

英語の学習成果は目的・目標とその意識によります。目的は「英語国の文化知識を深めるため」などという抽象的なこともあります。目的がより具体的な目標となれば学び方もより具体的なものとなり、到達目標も明確となります。目標到達のためには、何をどうすればよいのか？例えば、「英検」や「TOEIC」などの資格試験や留学試験の受験など、目的・目標が明確になれば学習意欲が増大し、学習に持続性が出てきます。まず、目的・目標を明確にすることです。

3. 目標の設定

学習目的に基づき、到達目標を決定し、さらに段階毎の目標（英語の何をいつまでにどの程度習得するかなど）を設定します。テスト（自己評価）を繰り返しつつ、到達目標と英語学力の現状を明らかにして学習を繰り返します。

英語学力到達目標は、(1) 英語の語学的な観点から (a) 発音（音声）・文字、(b) 語彙、(c) 文法・語法、そして、(2) 4技能の観点から (a) リスニング、(b) スピーキング、(c) リーディング、(d) ライティング、さらに、(3) 話題・文化理解、その他、社会言語学的、談話能力的、方略能力的観点から設定できます。

この目標モデルを中心に、目標到達のための学習方法と教材内容の具体策を検討することになります。只管朗読はどのように役に立つのか、皆さんで考えてみてください。

4. 英語の何を学ぶのか

到達目標と到達レベルに合わせてベストと思われる学習内容と方法を選ぶ必要があります。

(1) 語学的な視点から

(a) 発音（音声）と文字（筆記体と活字体）

地球上には約3,500の言語が存在すると言われています。人間の言語には、通常、音声言語と文字言語の2面があります。英語では26文字の大文字、小文字、活字体、筆記体のアルファベットと記号を使用して表記しますが、最近では筆記体を使用しない人が急増しています。D, E, F, G, H, I, J, Q, T, Z, f, j, r などの筆記体が読めない、書けないという人はかなりいるようです。西洋を旅行するとレストランのメニューは筆記体で書いてあるものも多く、パソコン時代とはいえ、筆記体を読む能力も必要と思われます。

音声に関しては、母音(vowels)、子音(consonants)、音の連続(sound sequence)、強勢(stress)、音調(intonation)、音声と綴りの関係など、自分の不得手な音声特徴について聞き取りと発音の訓練をする必要があります。英語の綴りも日本語の漢字の間違いと同様に思い込みがあるので、この思い込みをどこかで発見しなければなりません。d や b を正しく発音しながらも、"Yes, I bo." や、"I am dusy."と書く人もいました。

母音や子音をはじめ、音の連続、強勢、音調などは、国際音声学協会が考案した IPA（国際音声記号（音声文字））で表していますが、講演会ではそれを示しながら日本語の音声と英語音の関係を提示しました。英語では別々の単語の発音が、日本人が発音すると一つの同じ発音になります。たとえば、aunt と ant、lice と rice、ship と sip、earth と ass、rub と love、vowel と bowel 日本語発音は同じですが、英語母語話者は異なった発音をします。英語母音・子音の発音記号を参考に発音の練習を積みましょう。また英語音声における文強勢の等時性（isochronism）や連結（linking）も大切です。私は「フォーラントゥー」（four and two）を foreigners too と聞き間違えて恥ずかしい思いをしたことがあります。音読（朗読）やレシテーション（recitation 朗唱）、スピーチには、声の大小、高低、長短、音色、遅速、ポーズ（句間や文間）が感情を伝える際に重要な働きをするものです。平均で1分間に120語位の速度が聞きやすいと思われま

す。発音にはイギリス英語やアメリカ英語の他に様々な方言もありますが、私が初めて生きた英語として感動したのは高等学校3年生の時に聞いたケネディ大統領の就任式の演説でした。1961年（昭和36年）1月20日の10数分の就任演説において、発音の鮮明さ、明快さ、内容は言うまでもなく、聴衆に訴えかける話法、ポーズの大切さを学びました。“And so, my fellow Americans: ask not what your country can do for you — ask what you can do for your country. My fellow citizens of the world: ask not what America will do for you, but what together we can do for the freedom of man. Finally,……”とアメリカ人すべてがアクティブ・シティズンたれと語りかけています。この演説の一部を取り入れた歌も聞いたことがあります。President Kennedy の演説の一部をこの講演会でも教材として使用しました。

(b) 語彙・単語・連語 (collocation)・熟語 (idiom)

「語彙」とは、ある言語について、ある地域や分野、ある人、ある作品など、それぞれで使われる単語の総体のことです。私は日本語においても「語彙の豊富な人」になりたいと努力していますが、最近では忘れる方が多いようです。学校教育における「学習基本語彙」も学習指導要領では決められています。昭和30年代、私が高校生時代、英語の先生から9,000語ほどの英単語集が配布され、自主的に学習を奨励され、Aの項目からZまで丸暗記を試みました。若ければこそ出来ることです。昭和20年代の小学校時代には、かけ算九九に加えて割り算九九も覚えたくらいですから。六一加下四（ろくいちかかし）、六二三十二（ろくにさんじゅうに）、六三天作の五（ろくさんてんさくのご）……。昔は「Aの項の初めから覚え始めたが、abandon までで精一杯。あ、晩が来た、と諦めた〜。」とか、「わしはZから始め、次にXの項目に挑戦する。」とか、「俺は、〇〇君と競争して覚えている。」などみんな頑張っていました。現在販売されている単語集にはCDも付いており発音訓練もできます。昔は自己流に発音を発明し記憶することが多かったと思います。昭和40年代に私が塾で指導したY国大卒の若者は、「キブ・ガベ・ギブン」（give gave given）とか、「ヒー・イズ・ア・ブラベ・ポリケマン」（He is a brave policeman.）と多数の単語や文を流暢な自己流発音を披露しておりました。発音矯正が彼の入塾目的でした。

次に、連語(collocation) や熟語(idiom) を覚えるという挑戦があります。「連語」とは、2つ以上の単語が連結して、1つの単語と似たような意味と働きを持つ複合語です。複数の単語が連結して別の意味になる表現を「熟語」と呼んでいます。英語の熟語は、英語を学ぶ多くの日本人にとって難しいものです。「熟語」は既知の単語の意味とは異なった意味を持っていることが多いので日本人にとっては困難なものです。しかし、熟語は日常生活では多用されており、学習する必要があります。

この講演会においては、「イディオムの学習」として多くの用例を紹介しました。

(例)

1. I'll give it a shot.
2. That's tough luck.
3. I'm all for that.
4. It's not my day.
5. The plans are up in the air.
6. I'll lose face.

7. crocodile tears
8. a pain in the neck
9. at a snail's pace
10. be on cloud nine
11. be all thumbs
12. Out of the blue

(c) 文法・構文（文型）・語法（usage）

私が高2の夏期休暇中、早朝7時半頃から昼前まで、高校の英語担当のK先生は英文法の特別授業をして一気に高校文法教材を完了して下さいました。「この場合の possibility は『可能性』と訳すより『蓋然性』と訳す方がいいよ。」と言われるような厳しい先生で、「文法・文型は早い時期に時間をかけずに」習得させようと努力されたのではないかと思います。高校入試で「so~that」構文で失敗した私にとっては感謝に堪えません。私はK先生のおかげで英語構文力が向上したように思います。私の知る日本人留学生は、英国でバスの運転手に「ここで降ろして下さい。」と言うところを、"Get off, please." とか "Please get off here." とか言って笑われたと言っていました。正しくは、"Please let me get off here." とか "Can I get off here?" あるいは "Could you drop me off here?" と言うべきだったのでしょうか。彼は文法・文型知識は有ったが運用力が欠如していたのかもしれない。

英語の発音・文字（音声・文字の認識力と発声力）の類、単語力の類、文法・文型（構文力）の類、この三本の矢は英語学習の中心です。三本の矢から成る基礎知識と技能は、言語社会においてさらなる言語表現を習得するための「言語表現記憶の雪だるま」を太らせる芯になるもので、これが無ければいくら雪の玉を転がしても大きくなって達磨（だるま）になりません。途中で碎けて壊れてしまいます。母語習得においては、習得はイマージョン(immersion、集中訓練)環境にあり、三本の矢は迅速なフィードバックによって形成されるものと考えられます。英語の場合は、英語を朗読することにより可能な限り身近なものとするのが最良と思います。それが國弘正雄先生の主張される「只管朗読」です。先生は、「只管朗読が唯一の道」、「音読を通じて身体にすり込め」、「只管朗読により英語を直接イメージ化せよ」、「音読すればスピーキングとリスニング力がつく」、「パーツを組み替えることにより活用自在の能力がつく」、「音読を重ねれば文法力もつく」、「音読法でマスターした英語を積極的に使用して現場で技術を磨け」などの主張が見られます。モデル音声の「只管聞き取り」や「聞き流し」も大切ですが、意識的集中力の持続において「只管朗読」は優れていると思います。

(2) 4技能の観点から (a) リスニング、(b) スピーキング、(c) リーディング、(d) ライティングのうちどの技能をどの程度達成するか、さらに、(e) 翻訳 を加えて5技能からそして、

(3) 話題・文化理解、その他、社会言語学的、談話能力的、方略能力的観点等から

どの分野の英語を重点的に学習するかを決定して実行します。

5. どうやってどのように学ぶのか

「発音と文字」「語彙（単語・連語・熟語）」「文法・文型・語法」は、英語の基礎をなす「部分」です。「部分」を固めただけでは使いものになりません。「全体」を学習しなければなりません。「部分」の入力と同時に「全体」の入力も必要です。特に文字だけでなく常に多量の英語音声を入力することが先ず必要な条件です。「部分」の習得も必要ですが、「全体」の入力・出力が自由にできることが目標でしょう。学習方法も演繹的・帰納的に学習者により割合は異なるものの双方からのアプローチが効果的と思われます。

「部分」の学習に加えて、実社会でのコミュニケーション活動を円滑に行うためにはさらに他の能力も必要となるでしょう。単なる知識として学習したものでなく、実際に活用できる能力として習得するにはどうしたらよいかということです。習得に欠かせない条件は、実際の場面で英語を使用してフィードバックを迅速に得る中で、これら以外の能力をさらに磨くことです。英語の学び方

で重要なことは、英語の学習目的・到達目標に照らし合わせてベストと思われる方法を選ぶことです。学び方が習得方法となるように、つまり「学習をした」に留まらず、「学習したことが本当に身につくまで英語で行動できる」、「習得したと言える段階に到達すること」が望ましいでしょう。学習目的に合わせての英語の学習の例を紹介します。

(1) 英語資格試験を突破する — 通訳案内業試験と原爆資料館

この講演会では「英検とともに40年」という自分の回顧録を配布させていただきました。私は「英検」（実用英語技能検定）の面接官などを40年間もお手伝いさせていただきました。昭和38年には、通産省の通訳案内業試験（英語）に合格し、広島地区、特に原爆資料館の案内をしておりました。「宮島の鳥居」の歴史やその建築材料などを英語で説明もしました。看護英語は20年教えておりました。英語資格試験取得は、英語を使用する職業を意識するもので、テーマや話題毎に「英語の使用場面やトピックからの英語表現」の学習に結びつきます。「職業英語」です。最近では、TOEIC 関係、TOEFL 関係、児童英検、JET（ジュニア・イングリッシュ・テスト）、国連英検の関係テスト、工業英検、日商ビジネス英語検定、観光英語検定、CASEC、GTEC、通訳案内士などたくさんあり、広島大学総合科学部でも、Medical English 入門、国立広島病院附属看護学校では『外国であなたを救う本』で次のような用語も学習させていました。英語を自分の職業意識と結びつけることが英語学習の最も強い動機づけになります。

広島観光の英語特殊語彙の学習（広島と宮島に関する歴史的文化的な学習）：Symbol of World, Peace, unknown victims, self-destruction, disaster, tragedy, explosion, reduced to ashes, atomic bomb/cloud, statue, relics of the Atomic Bomb, tempest, etc.

緊急状況に必要な英語の学習：rheumatoid arthritis, frequent or severe headaches, dizziness / fainting spells, glaucoma, cataract, sinusitis, hay fever, stroke, hypertension (high blood pressure), gall bladder (gallstones), kidney stones, hepatitis, etc.

(2) 英語の朗読に酔う

國弘先生の「只管朗読」が効果的でしょう。理屈だけでなく、音読を楽しみながら、それを通じて英語を我が物とする、読み物教材は中学校や高校の教科書の教材や、市販のCD付き教材まで多種多様、自分に最適のものを採用し、只管朗読により英語音声内容を直接イメージ化できるようになるでしょう。つまり、語彙の拡大、文頭から文法的意味の区切り毎に理解する能力、音声と文字との関係を理解したり、文型練習を含む活動も行ったりすることにより、ネイティブの音声を参考にしつつ音読すればスピーキングとリスニング力がつくと思われれます。自分の朗読を実際に録音し、再生し、自ら聞いてそれに満足し聴き惚れるまで、朗読のトレーニングをしようということです。最近では学生に自分の音声を録音したテープを提出してもらい、英語朗読青春記念CDを作って学生に返してやります。また、「只管つぶやき」から「只管英語実況説明」まで発展させてもよいでしょう。勤務中（運転中）の広電の運転手に「うるさい！」と注意された人もいます。

(3) 英語ディクテーションで確認

「聞き流すだけで身につきます」ということもありますが、多量の英語を聞き取ることは大切です。正確に聞き取れているかどうかを確認するためには、音声の英語を録音し、それを文字に書き起こし、意味を確認する作業をすることも必要なことがあります。英文を視覚的に確認すれば、一層習得に役立つことがあります。私は熱心な学生にはディクテーション用の機械（サンヨーとかソニーのトランスクリイバー（ディクテーター））を貸し付け使用させております。1台数万円です。この機械との出会いは20数年前になります。懐かしいです。

(4) シャドウイングで鍛える

英語を聴取しつつ、すぐにその英文を模倣して発声してフォローします。聴いて意味を確認、音声に対する音声反応の迅速性の訓練をします。教科書の模範朗読や有名な政治家の演説など、シャドウイングには適しています。

(5) 暗唱・弁論・演説・演劇で心を表出

広島大学の学生時代は、広島大学英文学会主催で「中国四国高校生英語弁論大会」を毎年開催しました。シェイクスピア生誕400年祭には「ハムレット」も上演しました。現在は、「広島県高校スピーチ・レシテーションコンテスト」が継続されています。スピーチコンテストや、英語劇をすることにより、英語的雰囲気の中で英語を使用することにより英語力の増強は確実となります。広島であればこそ「戦争と平和に関する高校生・大学生の英語スピーチコンテスト全国大会 — 主張する若者」ができるかもしれません。平和を希求する広島。ヒロシマの心を伝えなければならない広島ですから。何かを主張するための英語学習、強い動機を持てば学習が進みます。

(6) 英語の歌を歌う

最近「前置詞の次には名詞が来ます」とか「現在の事実の反対を延べるのが仮定法過去です」と文法の説明だけをしているのが英語の教師ではなくなりました。「英語教師は、actor、actress、musician、magician たい」と誰かが言われましたが、そのような先生が多くなりました。英語学習用の歌CDも豊富になりましたし、YouTube など材料は豊富です。英語の歌の指導は Baby's First Rhymes、例えば、Baa, Baa, Black Sheep、Hickory Dickory Dock、Pussy Cat、Pussy Cat からはじまり青春の歌、大人の歌 Yesterday、Fly Me to the Moon、Amazing Grace、Yesterday、We Are the World、Silent Night、Auld Lang Syne など多数、無限。尾道市には、ある高等学校の先生でしたM先生とY先生が企画・実施されている「国際交流行事」、それと同時に開催される「英語の歌の集い」があります。毎月1度英語の歌を楽しもうと Japan Association of English Karaoke の主催で「英語で歌わナイト」が開催されております。身体と心に英語をすり込もうというわけです。

(7) 日記・メール・Webサイトに英語を書く

毎日、日記やメモを付けることによって英語力を保持し増強することも考えられます。広島大学の自然科学系の名誉教授、T先生が、「実は私は日誌や手帳の記録はすべて英語です。」と言われ、手帳を見せて下さいました。手帳は英語でビッシリでした。日本語は見当たりませんでした。さすが日本だけでなく世界中飛びまわり多忙な教育・研究生活を送られた先生の足跡が想像できました。

外国人と英語のメールを交換したり、その記録や日記や自分の意見を自分のWebサイトを設けて公開したりする人も多くいます。英語を学習する目的ではないのですが、自分のサイトを設定し、英語で記録・発表することにより結果的に英語が上達していくようです。

(8) 英語の新聞・雑誌そして漫画で多種の英語を

日本で発売されている英字新聞や雑誌を購読して英語学力(能力)を高めるということは上級学習者にとって素晴らしいことです。特に時事英語と呼ばれるやや特殊英語や現代的な英語表現に親しんだりすることは素晴らしいことです。Manga が英単語として辞書に載り、若者が漫画を愛し、日本が漫画を輸出する時代、これを教材とすることを考えてみましょう。漫画も多種多様、何を選択するか? 広島での講演ということで、中沢啓治『はだしのゲン』汐文社(翻訳本は、*BAREFOOT GEN* published by Last Gasp of San Francisco, 2005) この漫画からは、戦争の悲惨さを中心に広島弁と翻訳英語が学べます。「おどりゃ、ええ年をしやがって、あまつたれるな! バチン!」

(頬を叩く音) 「このばかたれっ!」「わしゃもうおまえなんかのめんどろはみきれんわい。もうかえったる! くそばか、はなたれ、しょんべんたれっ!」「うううう・・・ま・・・待てよ元(げん)・・・まってくれよ中岡元・・・」"Act your age, mister! Not like some spoiled brat!! -SLAP-" "You jerk!!" "I can't take care of you if you act like that! I'm going home! You can lie in your own shit, see if I care!!" "Sob... G-Gen... Wait... Gen Nakaoka... Wait..."

(9) 映画でさらに多様な英語表現

田舎も奥地で育った私は、都会の映画館での特に洋画鑑賞に憧れたものです。それどころか年に一度くらい学校に廻ってくる映画(活動写真)を見ると感動しました。初めて見た「原爆の日」の

場面をも覚えているくらいです。映画を英語学習教材にしたものも多くあります。思い出としては、広島大学の教養課程の英語教材として『渚にて』を使用していた頃、皮肉にもチェルノブイリの爆発事故。最近では500円前後で十分昔の映画が楽しめます。古くて有名な映画のDVDはスーパーや電気屋でも販売しています。「哀愁」(Waterloo Bridge)、「風邪と共に去りぬ」(Gone with the Wind)、「怒りの葡萄」(The Grapes of Wrath)、「ジェーン・エア」(Jane Eyre)、「シェーン」(Shane)など、シナリオとともに学習すれば英語学習に役立ちます。

(10) NHK 英語番組等の利用

この講演では、新聞、漫画、映画に続いてラジオ、テレビ番組からの英語学習について、特にNHKラジオ語学番組、NHKテレビ番組時刻表を配布して説明しました。「基礎英語1～3」、「ラジオ英会話」、「ニュースで英会話」、「テレビで英会話」、「リトル・チャロ英語で歩く」などです。昔は雑音と真空管の老朽化を気にしながらNHKの基礎英語やラジオ英会話を聞いていたものです。平川唯一、松本亨、東後勝明、島岡丘、大杉正明先生らの名前を思い出す人も多いと思います。私が広島に住むようになった頃は、岩国のFENでの耳慣らしでした。西条新キャンパスではFENは届きませんでした。エンドレステープとFM無線発信器を備えて、英語教材を学生用に放送したこともありました。

(11) 国際学校や英語寮で生活英語の学習

私たちにとって英語は普通、「外国語」(EFL)ですが、それを「母語」(ENL)とまではいかないが「第2言語」(ESL)並みに考えて、英語環境の中で生活して英語の上達を図ろうとする試みもないわけではありません。英語の学習の環境作りの問題です。学校・進学塾、家庭での机についてのみの学習なのか、2つの言語の飛び交う家庭での学習なのか、「英語ラウンジ」を備えた特殊な英語塾なのか、人工的英語村のような環境なのかという問題です。私も、若い頃、広島牛田の「国際学校」の教師や英語寮の運営に携わりました。アメリカ人と一緒に大学生、企業人、一般人の学習者が生活を共にしながら英語の基礎とともに衣食住の生活英語を習得していきます。枕にはスピーカーが埋め込んであり、睡眠学習も可能でした。ある程度の時をここで過ごしますと英語の生活には苦労は無い状態となるようです。昔、広島出版社が瀬戸内海の無人島を英語島にするとか聞いたことがあります。最近では英語ホテルや、大学の構内に英語地区を設けて「英語特別教室」を設定している学校もあるそうです。また留学生の多い学校では International Hall of Residence で共通言語を英語にすることなど可能でしょう。



TSS 文化大学で講演中の著者

(12) 英語国留学で学問から国際異文化交流へ

英語の上達、英語文化の体験、専門科目の獲得のために留学を目指します。目的を持っただけでも英語学習の動機づけになります。その目標が達成されると英語環境の中に自己をイマース（没頭）して困難な社会同化を試みるのも面白いと思います。私は広島大学教育学部英語教員養成関係のコースが西条キャンパスに移転した頃、英国エディンバラ大学と単位互換協定を結び、半年間の留学制度を創設しました。その後、ウォリック大学、ランカスター大学、リーズ・メトロポリタン大学と拡張しました。"Before"、"While"、"After" の学習動機はかなり高かったようです。留学しコースの課題に取り組み、期末評価を意識しつつ英語環境の中で生活すれば、コミュニケーション能力（Communicative Competence: その構成能力は grammatical, sociolinguistic, discourse, and strategic competence）の養成の近道となるのではないのでしょうか。

6. おわりに

英語力は、発音・綴り、単語・語彙、文法・文型・構文の力が中心です。しかしこれらは決してコミュニケーション能力の全体ではありません。これらを取り巻く英語能力もこの度紹介しました。英語の諸活動に参加しながらこれら全体の力を意識的に増強・完成を心がけましょう。流暢さだけ上達して、調子よく人に何かを依頼すると、"Say please." と叱咤された人を知っています。人に依頼する時には、"Please"を付けましょう。いかなる能力が求められていたのでしょうか。また、「フィッ・アー・ユー・トーキン・アブーツ」(What are you talking about?) とか、「オイ・プライ・バイスボール」(I play baseball.) など多くの World Englishes の（変種、varieties）が見られ私たちの挑戦は限りなく続きます。

（本稿は、2013年2月19日、TSS文化大学における講演の概要である。）

